

(社) 日本家政学会第 55 回大会報告

実行委員長 本 間 清 一

(社) 日本家政学会第 55 回大会は、平成 15 年 5 月 24、25 日の 2 日間にわたり、東京のお茶の水女子大学を会場に開催された。大会第 1 日は午前には口頭発表とポスターセッションの説明・討論、午後には総会・学会賞授与式、特別講演、パネルディスカッションが行われた。夜には池袋のホテル・メトロポリタンに場所を移して懇親会が催された。第 2 日には午前・午後とも口頭発表が行われた他、午前からお昼にかけて若手の会、ポスターセッションの説明・討論、研究部会が催された。ポスターは両日に渡って展示されて多くの人を集めた。また機器や本の展示も 2 日間とも盛況であった。大会期間中は好天に恵まれ、全国から 1,100 名を超える参加者があった。会員の方を始め、多くの会員外の方々、また企業の方々の参加と協賛を得ることができた。大会運営に携わられた大会運営委員会及び大会実行委員会の皆様、会場校の関係者の皆様、協力いただいた学生の皆様に、心から感謝申し上げる。

総会・学会賞授与式

学会本部主催の総会と学会賞授与式は大会初日の 1 時から 2 時 15 分まで徽音堂（大学講堂）にて開催された。

特別講演・パネルディスカッション

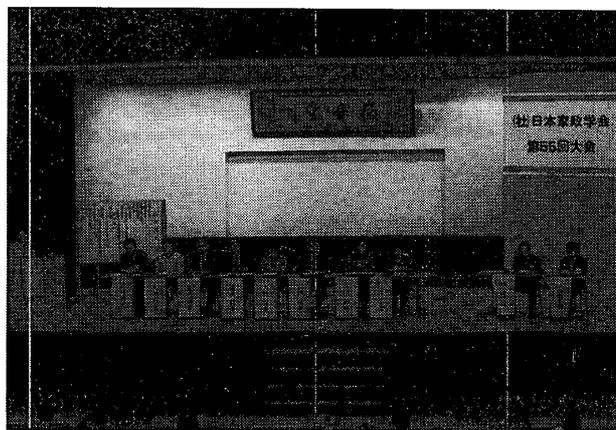
特別講演とパネルディスカッションは総会に引き続き徽音堂で開催されたが、高質の音響と映像を提供するために学外のプロに機器の借用と操作を依頼した。

特別講演（2:30~3:30）はお茶の水女子大学名誉教授・放送大学教授の徳丸吉彦氏による「日本音楽を再考する」の演題であった。講演は音響と映像を駆使して行われ、臨場感のある場面が提供された。

日本音楽を以下の切り口で解説された：

- 1) 伝統における書記性と口頭性の関連
- 2) 書記性と口頭性の間に位置する唱歌
- 3) 文化触変
- 4) 間テキスト性
- 5) 外国における日本音楽

紹介された伝統的音楽は、雅楽、東大寺声明（修二会「お水取り」）、尺八、沖縄の三味線、長唄、箏曲、椎葉村の神楽などであった。さらに、日本の音楽を形作った楽器のルーツとも考えられるアジア各地の伝統



総会



学会賞

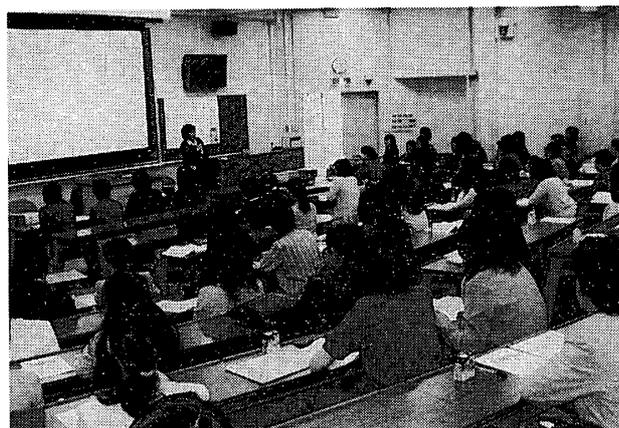
的楽器が紹介された。徳丸教授が訪問調査して収集した民族楽器と音色を提示しながら楽器の材料と音色の関係を科学的に説明され、音楽学の一端にも触れることができた。

パネルディスカッション（15:45~18:00）のテーマは「生活の安心と表示」であった。

生活の安心は提供される情報に依存する部分が大きく、表示制度が情報提供を支えている。一方、表示制度は生活の分野毎に特徴があるので、生活全般を見渡す見地も必要である。以上を背景として、衣食住およびサービス関係の 4 部門に分けて、表示の現況を話題提供者が概説した後、院生などの壇上に上がっている若い質問者からのコメントを皮切りにしたが、時間不



特別講演



若手の会



パネルディスカッション

足でフロアーの意見を交えた議論はできなかつた。最後に消費生活関連のアドバイザー夷石多賀子氏（東京都生活文化局）に表示制度と持ち込まれた表示のトラブルについて生活全体の視点でコメントをいただいた。話題提供者*とオルガナイザー：

- 被服 *増田 優 東京農工大学工学部
 - 駒城素子 お茶の水女子大学生生活科学部
 - 食物 高宮和彦 共立女子大学名誉教授
 - *本間清一 お茶の水女子大学生生活科学部
 - 住居 *一棟宏子 大阪樟蔭女子大学学芸学部
 - 田中辰明 お茶の水女子大学生生活科学部
 - サー *上村協子 東京家政学院大学家政学部
 - ビス 御船美智子 お茶の水女子大学生生活科学部
- 生活全般からのコメント

夷石多賀子 東京都生活文化局

質問者：

- 被服 三代かおる お茶の水女子大学人間文化研究科博士後期課程

輿儀由香里 大妻女子大学大学院家政学研究科

食物 富坂和枝 日本女子大学家政学部食物学科助手

近藤望美 お茶の水女子大学人間文化研究科博士後期課程

住居 小林文香 お茶の水女子大学人間文化研究科博士後期課程

サー 井元りえ 山梨大学講師（非常勤）

ビス 近藤清華 共立女子大学助手（非常勤）

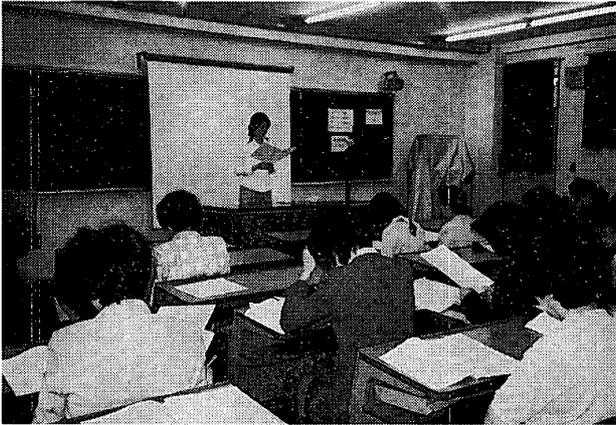
話題提供が多岐にわたるので一分野当たり 25 分では質疑の時間も乏しかった。各分野ごとに再度表示問題を取り上げて検討を深め、本学会の主要な研究課題に位置づけることも期待される。

若手の会

若手の会は、家政学に関する研究や教育に携わる若手研究者が分野・地域にとらわれず考えていることを話し合い、専門・領域を越えた交流を深めることを目的とする会である。1996 年発足以来、若手研究者に有益な話題の講演会・シンポジウムを行い、今年で 8 回目を迎えた。本年度は、パネルディスカッションを大会 2 日目 11 時～12 時、理学部 3 号館 7 階大会議室で行った。大会に先立ち、会員募集、会の PR、若手研究者のネットワーク作りを目指しホームページを作成した。各支部の下に若手の会を立上げ準備中である。

「仕事・研究とプライベートライフの両立」という演題で、3 名の若手研究者（粕谷美砂子先生〈昭和女子大学短期大学部〉、磯部由香先生〈三重大学〉、都築和代先生〈産業技術総合研究所〉）に仕事・研究とプライベートライフの両立の為の苦勞話、工夫等の体験談をお話し頂いた。学生・若手のみならず男性を含

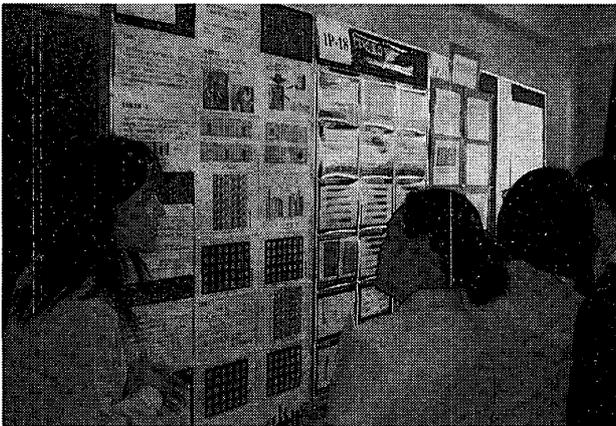
(社)日本家政学会第55回大会報告



口頭発表



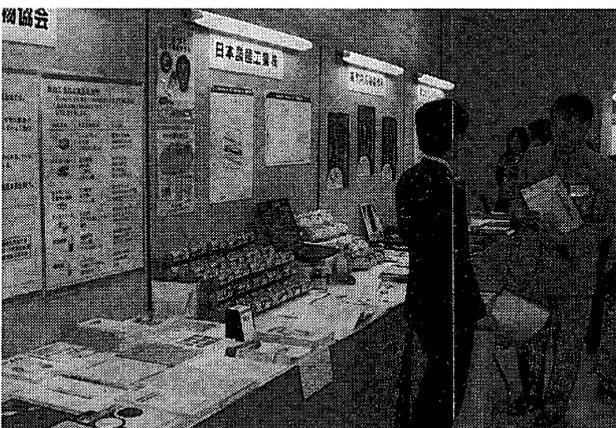
懇親会 会長あいさつ



ポスター発表



懇親会



展示

め約130名の参加があり、終了後36名のアンケート協力が得られた。各先生方の明るく前向きな姿に、「励まされた」「有意義だった」「心強かった」という声が多く寄せられた。このような体験に基づく情報交換を積極的に行うことの必要性を再認識し、これらの有

益な情報を、ホームページを活用し若手の立場から発信・共有し、支えあう基盤作りをしていくことの重要性も感じた。

最後に、この企画開催にあたり、発表時間と重ならないようご配慮下さった大会関係者や理事の方々に心より感謝申し上げます。

(若手の会 文責 村上かおり)

研究発表・展示・懇親会

口頭発表は、第1日5月24日(土)は9時~11時30分、第2日5月25日(日)は終日行われた。ポスターセッションでは、第1日が9時30分~15時30分、第2日は9時30分~15時にポスターが展示され、第1日は11時30分から、第2日は12時からそれぞれ30分説明と討論の時間が設けられた。口頭発表は12会場で行われ、家政学原論・家庭経営・家庭経済・家族関係23件、児童7件、食物192件、被服92件、住居64件、教育6件、環境6件、高齢者の生活14件、計404件の発表があった。ポスターセッションは80

件の発表があった。

機器・実物展示は受付近くの会場と書籍展示は休憩室前ロビーの2カ所に分けて行われた。会場が狭隘のため展示場所が十分に確保できず、ご迷惑をおかけした。それでも45社の機器等の展示と、カタログの展示が行われ、多くの参加者が訪れた。図書の販売も順調であった。休憩室には協賛19社から飲料や菓子などの提供品が多数寄せられ、参加者の憩いのひとときに喜ばれた。展示を直接担当されたエー・イー企画はじめ、多くの方々のご尽力とご協力に感謝したい。

懇親会は池袋のホテル・メトロポリタン、富士の間で開かれた。本間大会実行委員長が開会の辞を述べた後、片山倫子大会運営委員長、江澤郁子会長の挨拶があり、岩崎芳枝名誉会員の御発声によって乾杯となった。祝宴の間には小澤千穂子会員のピアノ伴奏による佐藤宏子会員のフルーツ演奏があり、宴を華やかに盛

り上げた。牧野カツコ大会実行委員が開会の辞を述べ、2時間にわたる懇親会はお開きとなった。

大会の運営

前年の8月に実行委員会を発足し、大会までに計8回の実行委員会が行われた。このうち2回は運営委員会との合同委員会とし、大会準備を進めた。

託児室に関しては、実行委員会としては今回は会場内には設置しなかった。本部の企画委員会が学会誌に「託児についての情報提供」として託児室を持つホテルを2カ所紹介した。会期終了後に利用状況等を確認したところ、期間中に会員からの問合せおよび利用申込みはまったくなかったとの報告を受けた。

最後に、本大会会場のお茶の水女子大学の職員等の関係者の皆様には、休日にもかかわらず、様々なご配慮とご協力をいただいた。ここに厚く御礼申し上げます。